

# 令和2年度 リスクコミュニケーションの進め方について（案）

## 第1回リスク評価企画検討会での主な御意見

### 開催方法について

- 地方の企業にとっては、ライブの雰囲気共有できるような形が望ましいのではないかと。
- コロナの感染リスクにかんがみ、地方開催としてはどうか。
- 化学物質を扱っている企業の多い大都市開催の方が多くの方に参加いただけるのではないかと。
- ネット環境を利用した開催では双方向は難しい。
- ①講演者と同じ部屋にいる②質問できる③地方からも聴講できるという3点があれば十分ではないかと。

### 議題について

- 昨年度第1回リスクコミュニケーションでは、リスク評価の結果よりも、がん原性指針について関心が高かった。
- 一般的なテーマとしてがん原性や生殖毒性に関するものが1つ、リスク評価の結果が1つ、これらは必要ではないかと。

## ◆ 令和2年度リスクコミュニケーション開催方法 ◆

### ＜POINT＞

- 双方向コミュニケーションの観点から、参加者を募る形態を優先。（新型コロナウイルス感染症の状況次第で、リモート型も検討）
- 参加者の参加しやすさを考慮し、会場は大都市とする。
- ただし、会場への参集が困難な地方都市に考慮し、リモート配信も実施。

### ＜事務局案＞

#### ①複合型（会場：東京及び大阪で各1回開催）

- 講演者による講演＋パネルディスカッション形式
- ソーシャルディスタンスを考慮した会場設営
- 全国の視聴者にリアルタイム配信（人数限定、事前登録制）
- 質問は会場参加者からのみ質問を受け付け

#### ②リモート型

- 講演者による講演＋パネルディスカッション形式
- 全国の視聴者にリアルタイムor録画配信（人数限定、事前登録制）
- 事前に質問を収集、パネルディスカッション時に回答

※いずれの場合も、講演については録画したものを厚労省HPにてupすることを予定

		会場に参加者を募る	
		募る	募らない
リモート配信	あり	①複合型	②リモート型
	なし	③従来型	

## ◆ 令和2年度リスクコミュニケーション議題 ◆

### ＜POINT＞

- 今年度の検討会において、がん原性指針などの個別事案の検討は行われていない。
- 昨年度議題とした「今後の化学物質の管理のあり方」に関してその後も継続して検討が行われている。

### ＜事務局案＞

#### ◎「今後の化学物質の管理のあり方」について

（理由）

昨年来「職場における化学物質等の管理のあり方に関する検討会」で検討が行われており、今後も傘下のWGで化学物質規制の方向性やリスク評価のあり方について検討が行われる見込みであるため。

#### ○「リスク評価結果」について

（理由）

新たにリスク評価がなされた物質について、労働者保護の観点から広く情報を周知する必要があるため。

※昨年度のような民間企業による講演についても要検討